

## せめて暖かいジャケットが欲しかったなあ。

合歓の郷から上京する日は曇一つない晴天で、山の緑と海の蒼が目には染みました。思い出として英虞湾で採れた真珠が欲しかったし、一度くらい伊勢神宮参拝をして「赤福」を食べたかったけど、所持金が僅かなので諦めるしかありませんでした。名古屋から東京駅、そして渋谷に到着すると都会の空気にめまいがしそうでした。「親も故郷も捨てて来た！」みたいな強い決別の意志は無いけど、とにかく前へ前へといった気持ちが止まらない。たびたび上京していた高校生の時とはまったく違う感覚でした。

私のこれからのベースとなる制作室は渋谷のエピキュラスなので、家の準備が整うまでは渋谷のホテルで暮らす段取りになっていました。今でこそ素晴らしいホテルの建ち並ぶ渋谷ですが、当時はまともなホテルって公園通りの一軒だけ。地方出身者の多いポプコン出場者はこのホテルをよく利用していました。このホテル暮らしの間、誰かアーティストがチェックインすると夜になってから部屋を訪ねたりして、お国自慢や情報

交換で息抜きをしたり刺激的な時間を過ごしました。「アーティスト」っていうとカッコイイのですが同じような境遇同志、狭いシングルルームでの他愛もないお喋りで気持ちが救われることもありました。何故なら、ポプコンからは毎年新鮮で才能溢れるアーティストが続々とデビューしてくるからです。彗星の如く現れて消えたくない、自分を見失わずにヤマハで音楽活動を継続したい。そんな私の夢を吐き出せる機会は大切でした。

昼間は毎日ホテルから制作室に通いました。途中の道にはできたばかりのPARCO、西武と東急のデパート、フルーツパーラーなどなど。ショウウィンドウに自分を写して身なりを整えても、私には手の届かないお店ばかり。合歓の郷ではほとんどお金を使う事がありませんでしたが、東京に来てからは食費が必要でした。専属契約料をたくさんもらえる人もいれば、私のようにそうではない人もいます。あつと言う間に所持金も底をついてしまい、ホテルは朝食付きだったので食事は1日に1回だ

け。夏物の洋服しかないのに季節は冬になってしまい、水道水でお腹を満たす毎日でした。せめて暖かいジャケットが欲しかったなあ。専属契約をしているので他の仕事はできない、あの時代にはシフト自由っていうバイトもない、そもそも私は音楽以外の仕事はしない、親にも頼らないと決めていた。ホテル暮らしって優雅な響きだけど極貧を味わっていました。でも不思議なことに辛いとか苦しいとか悲観することは一度もなかった。今でもあの頃を思い出しては「よく生きてたな〜」って笑ってしまいます。



2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をリリース。ジャズファン、ジャズメン、オーディオファンから高く評価支持される